

高校図書館による展示

見る・知る高校図書館

今回で 14 回目となる「図書館と県民のつどい埼玉 2020」は 2020 年 12 月 13 日（日）、桶川市民ホール・さいたま文学館での開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン公開のみとなりました。

展示企画は、「コロナ禍と高校図書館」（高校図書館はコロナ禍をどのように受け止めたのか）・「埼玉県推奨図書」・「埼玉県の高校図書館司書を選んだイチオシ本」と例年に比べると半数程度の数に絞りました。また会場が密になるのを避けるため、ここ数年続いていた体験コーナーは設けませんでした。スタッフの人数を抑え、短時間シフトを極力考え、レイアウト・動線についても感染対策を念頭に計画していましたが、直前にオンライン公開（業者が撮影した展示の写真を WEB で公開）のみに変更となり、会場でお客様に会えただくことがかなわなかったのは残念でした。

◆準備

昨年度から地区ネットワークの持ち回りで運営することになり、今年度は東部 B・東部 C が担当しました。各地区から実行委員を選出し、実行委員会を立ち上げました。

各地区内の連絡も両地区の連絡も電話やメールなどの手段を使い、実行委員会の回数も例年に比べると非常に少ない回数になっています。

- 第 1 回 10/2（金）さいたま文学館研修室 2
係分担確認、展示企画内容
- 第 2 回 11/17（火）春日部高校
展示企画内容、会場、会計、日程
- 第 3 回 1/15（金）春日部高校
総括、会計報告、次年度企画等

◆前日・当日

前日は 7 名の実行委員で午前中に展示を行いました。各自分担の作業をこなしてきたため、比較的早く作業が済んだように思います。

当日は、片づけ、講演会の記録など最小限の人数に縮小しました。

◆各企画について

①「コロナ禍と高校図書館」

・埼玉県高等学校図書館研究会の調査より

県立高校図書館では、休校中、県が導入している Google Classroom を情報発信・読書支援ツールとして活用する動きが広まりました。

埼玉県高校図書館研究会の研究部では、この新しいサービスについて、7 月にアンケート調査を行っています。その結果の中から、「司書の Google Classroom の利用状況」「高図研内外の業務において、対面での会議が出来ないために例年にない対応として利用したもの」について、グラフ化して展示しました。



・コロナ禍の影響

2020 年 1 月から 12 月まで、コロナ禍の中の高校と高校図書館の様子は例年とどう違っていたのかを、今回の実行委員の地区の学校の情報をもとにまとめました。例年と今年の流れを月ごとに分けて表を作成し、展示を行いました。

2 月から入試に伴う臨時休業が始まり、その後新型コロナウイルス感染症流行によって約 4 か月間も生徒たちに会えなかったこと。自宅学習期間に、オンラインでの情報提供や郵送貸出など、図書館を生徒たちに届けるた

めの業務を開始したこと。6月の学校再開後は様々な行事が消滅し、オリエンテーションを十分に行えない学校があったこと。滞在時間や授業利用に制限をかけたこと。カウンター当番の実施方法や文化祭・図書委員研修交流会の中止など、委員会活動に頭を悩ませたこと。2020年の高校図書館は例年にない対応を多く行ってきました。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めた1年間、私たち高校図書館司書が手探りで進んできた道のりの簡単なまとめではありますが、まだコロナ禍が続くことが予想される次年度以降に活かしていければと思います。



・さまざまな対応

コロナ禍における対応を紹介するために、さまざまな高校図書館から、作成した館内掲示物、注意書き、図書館便り、館内写真などを集めて掲示しました。

入退館時の手洗い・手指の消毒を促すものや、座席の利用制限などソーシャルディスタンスを促すもの、分散登校時の説明を案内するものなど、たくさんの資料が集まりました。

どれも、この時期で無ければ作られることのなかったもので、「コロナ禍の高校図書館」において、各校司書が手探りの中対応を模索した様子をよく表す展示になったと思います。



集まった写真は、3種類に分けることができました。1つは、コンビニやスーパーでもう当たり前になってきているビニールカバーの写真です。カウンターがあり、貸出返却といった物のやり取りや会話が多くの部分に合った対策をとっている学校がとても多くみられました。次に、座席を隔てる間仕切りの写真が多く、座席数の削減やソーシャルディスタンスを意識している事が分かります。友達と雑誌を読んだり、何か作業をしたりと、複数名での利用が多い高校図書館ならではのようです。最後に、少しいませんが、サインの写真もありました。生徒、職員が利用する図書館ですので、消毒などの意識づけが必要です。示し合わせたわけでもなくとも、どこの図書館からも共通な写真を集めることができ、司書がどこで工夫を凝らしているかが分かりやすく表現できました。

・高校司書が思ったこと

コロナウイルスの感染拡大により、高校司書の働き方も変化した年となりました。

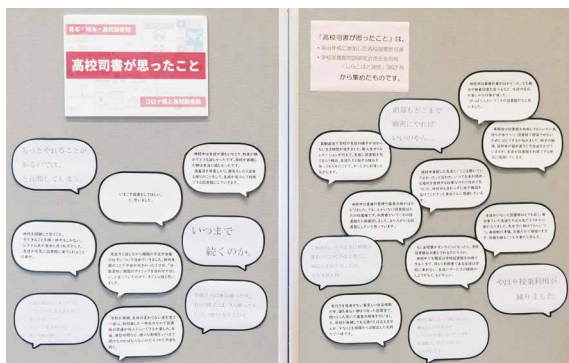
休校という事態、学校再開後も例年とは大きく異なる状況に対して、どのようなことが大変だったのか、何を考えたのか、今しか記録できない「思い」について、本企画を担当する地区の司書からコメントを募りました。

これに加え、県内の高校司書を中心とした学校図書館関係者が加入する研究会である学校図書館問題研究会埼玉支部の了承を得て、機関誌「しらこぼと通信」の掲載記事の内容

の一部も展示しました。

記事の内容は新型コロナウイルスへの対応について高校司書の会員にアンケートを取ったものをまとめたもので、この記事の文章を引用して展示を作成しました。ごく一部の紹介ですが、引用にあたっては高校司書的心情が込められていると感じた一文を選びました。

休校で生徒がいない寂しさ、学校が再開された嬉しさ、コロナ対応の難しさ等、高校司書ならではの思いを伝える展示にしました。



・コロナ関連本リスト・新聞切抜きリスト

担当地区の学校図書館で、広報で紹介したり、展示を行ったりした関連本のリストを作成しました。また、新聞切抜きをファイルに入れ、資料として提供していた例を取り上げ、一覧を冊子にしました。

②埼玉県推奨図書

会場で令和2年度推奨図書を展示する予定でしたが、広報活動の紹介をWEBに掲載することにしました。

資料として、青少年課WEBへのリンク、チラシ「令和2年度埼玉県推奨図書」「埼玉県推奨図書が決まるまで」「令和3年度埼玉県推奨候補図書応募用紙」などを掲載しました。

例年、この推奨図書に関する来場者のご意見を青少年課にお伝えすることが出来る貴重な場となっていますが、今回は直接のお声を聴くことはできませんでした。候補図書の応募やオンラインでのアンケートの回答が少しでもあるとよいと考えています。

③埼玉県高校図書館司書が選んだイチオシ本

「イチオシ本」とは、1年間の新刊から、「高校生に読んでほしい本」の投票を募り、ランキングを決定する企画です。2019年版(2020年2月発表)で10回目を迎えた企画であり、ベテランから若手まで、総勢15人で運営をしています。

今年度はオンライン公開ということで、「イチオシ本 2019」のベスト10にランクインした作品とPOP・パンフレットの展示のみを行い、以前のランキングやその他の取組については、図書館と県民のつどい埼玉2020のウェブページから「イチオシ本」のウェブページにリンクをつなげる形で紹介することになりました。実際に本やパンフレットを手にとっていただくことはできませんでしたが、写真やウェブページを見た方々が「イチオシ本」の取組に興味を持っていただければ嬉しいです。



最後に

今年度の企画は、新型コロナありきの内容でした。担当地区全体で作成物や展示の内容に係る形にしましたが、開催方法の変更などもあり、例年とはだいぶ違う仕事分担になりました。負担感が少ないものの、2地区で行う仕事分担についてもまだ検討が必要に感じます。また、今後は会場開催・オンライン開催も視野に入れた企画が必要になるのではないかと思います。

(記録：埼玉県立春日部高等学校 柴田 泉)